

令和2年度 林業成長産業化構想技術者育成研修(ICT研修)

開催日時 令和2年10月13日（火）～16日（金）
研修場所 四国森林管理局会議室（高知県高知市）
現地研修 新道山国有林3083林班ほか（高知県中土佐町）
受講者 県職員4名、民間事業体2名 森林管理局職員6名

【概要】

- 1日目は、開講式において、武田森林整備部長の挨拶と進行役によるオリエンテーションに続き、局サポート講師による演習地等の説明、林道作設計画のためのツールとしてQGIS、FRD等の講義を実施。その後、大谷講師による森づくりの構想の講義を行った。また、カリキュラム終了後、中央研修で予定されていたGIS等を用いた演習が動画視聴となったことから受講生任意参加のもと演習補講を実施した。受講生12名中11名が参加し中央研修の補完が行えた。
- 2日目の午前は、森づくり検討の現地実習を実施。大谷講師による下層植生などのミニ講義が行われた。班毎に収集した林分状況のとりまとめを行い、とりまとめたデータをもとに目標林型等の発表・質疑応答を行い午前中を終えた。午後は、路網配置計画演習地の状況をドローンを実際に飛ばして確認し、更に林地の大半を遠望できる地点（森林作業道）から遠望し、現地地形を確認した。また、地形地質と路線整備との関係について現地法面の地質等を見ながら小原講師による講義がなされ、受講生は熱心に耳を傾けていた。その後、会場に戻り、現地踏査のまとめを行った。
- 3日目は、進行役から当日の演習の進め方の説明及びQGISやFRDを使用した路網整備及び森林施業に関する講義に続いて、各班が検討及び発表資料作成を行った。
- 4日目は、発表等に関する説明の後、各班からスライドによるプレゼンテーションを行った。班毎に発表、質問、フィードバックシート記入に分かれ、発表、質問に対するディスカッション等を行った。受講生や局サポート講師による新たな気づきにつながる視点の質問も入り、活発な意見交換が行われた。その後、狩谷委員、小原講師、中村対策官、森谷課長による助言・講評等がされ、研修の全日程を終了した。
- 全体を通して、経験年数・実務経験レベルの差はあったが、各班の構成バランスが良かったこともあり、全体的習得内容に大きな差異は見受けられず、受講生全員が前向きに研修に取り組んでいるのが印象的であった。

【研修の様子（1日目）】



研修の目的の説明



地域特性に応じた森づくりの構想講義

【研修の様子（2日目）】



森づくり検討での測竿等による計測



路網配置の考え方について説明

【研修の様子（3～4日目）】



林業成長産業化構想演習（班内検討）：3日目



森林資源利用構想について各班からの発表：4日目